

| | |
|-------------|-------------|
| 群 教 セ | F08 - 01 |
| | 平 26. 254 集 |
| | 生徒指導 |

世界史の授業による 他者を尊重できる生徒の育成

— 歴史的事象を素材とする意見交流を通して —

特別研修員 鎌田 直史

I 研究テーマ設定の理由

いじめ・不登校の問題を未然防止するためには、他者を尊重し、よりよい人間関係を構築することが不可欠である。「平成26年度県立学校教育指導の重点」には、「自他を大切にできる心や自己肯定感を育むこと」や「いじめ防止に努め、良好な人間関係を築く力を育成すること」などが掲げられている。そこで本研究では、世界史Bの学習を通じて「他者を尊重できる生徒の育成」に取り組むことにした。

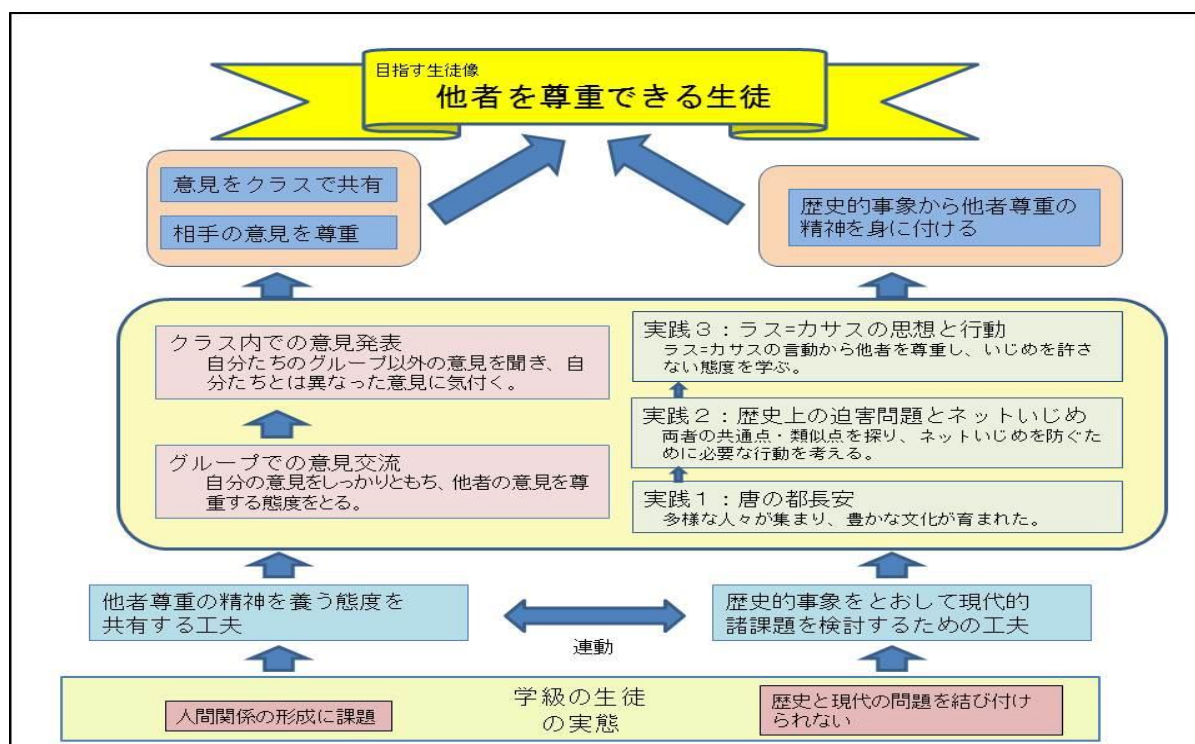
授業実践を行う学級において、世界史Bの学習に関するアンケートを実施したところ「歴史を身近な問題を通して考えたことがある」と回答した生徒は14人(35%)にとどまった。このことから、生徒は歴史を通じて現代社会の諸問題を考察することが不慣れであるという実態が明らかとなった。アンケートの結果を踏まえ、各単元のまとめにおいてグループによる意見交流を取り入れ、歴史的事象を通じて現代社会の諸問題を考察するとともに他者の意見と自分の意見を交換して相互理解を深める学習活動を行った。

グループによる意見交流とは、自分の意見をしっかりと持ち、他者の意見を尊重する態度をとることを前提とする活動である。意見交流を通して相互理解を深めることにより、他者尊重の精神を養わせ、良好な人間関係の構築につながると考えた。

以上のような学習活動を通して、諸事象を公正に判断する力を身に付けさせ、他者を尊重できる生徒を育成することを目的として本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) 歴史的事象を通して現代的諸課題を検討するための工夫

生徒が歴史的事象と現代の諸課題を結び付けて考えることに不慣れであることから、歴史的事象と身近な問題や現代的課題を考察しやすくするために、以下の2点を工夫して行った。

【実践2】歴史上の迫害問題を通して現代の課題（ネットいじめ）を比較検討する。

ア ユダヤ人迫害の歴史を概観し、迫害された理由や迫害の実態を知る。

イ 生徒にとっての身近な現代的課題として「ネットにおけるいじめ」を取り上げ、歴史上の迫害問題と結び付けて問題点を考察する。

【実践3】ラス=カサスの言動を通して現代の課題（ネットいじめ）の防止に何が必要か考察する。

ア スペイン人による先住民支配の実態とネットいじめの問題点を結び付けて考える。

イ ラス=カサスの言動をもとに、いじめ防止にどう取り組むべきかを考える。

(2) 他者尊重の精神を養う態度を共有する工夫

グループで自他の主張を交えて意見交流し、クラス発表で他グループの意見にも触れることで、クラス内で課題意識を共有して他者尊重の精神を養えるように以下の2点を工夫して行った。

【実践2】歴史上の迫害問題とネットいじめについて、グループで意見交流を行い発表する。

ア ネットいじめに関する新聞記事をもとに、ユダヤ人迫害との共通点・類似点についてグループで意見交流しながら、相互の意見をもとに考えをまとめる。

イ ネットいじめの問題を未然に防ぐためにはどのような行動が必要かグループで考える。

ウ グループの意見を発表し、他のグループの意見も取り入れて考えを深める。

【実践3】ラス=カサスの言動の中からいじめ防止に何が必要かを探り、クラスで発表して共有する。

ア ラス=カサスの「人類はひとつ」という言葉に着目させ、他者尊重の重要性に気付かせるとともにいじめ防止に対する認識を高める。

イ ラス=カサスが周囲からの非難・妨害を受けながらも先住民保護に取り組んだ姿勢に着目させ、いじめ防止にも同様な態度や行動が必要であることを共通理解させる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 歴史的事象と現代のいじめ問題を比較検討することにより、「いじめ」について問題意識を持って考察することができた。特に、他者を尊重する精神を養うとともに、周囲に流されずいじめを許さない強い態度を持つことの重要性を再認識させることができた。
- 意見交流では、生徒が自分の意見を主張するとともに相手の意見に耳を傾け、自分の意見と異なる他者の意見に気付き、自分の考えを深めることができた。
- グループの意見を発表し合うことによって、「いじめ問題」を防止するために必要となる行動を理解し、互いに認め合える環境をクラス内に築くことができた。

2 課題

- 歴史的事象を通して現代社会の諸課題を考察する授業実践を効果的に行うためには、継続した指導を行う必要がある。
- 歴史的事象の理解をもとに現代社会の課題（いじめ・不登校）を生徒に考えさせるための教材と指導方法を各単元で構築することが課題である。

3 提言

- 教科指導において「他者を尊重する精神を養うこと」をねらいとした意見交流（グループ活動）を積極的に授業に取り入れることで、他者を理解するという意識が高まり、互いに認め合える環境を構築することにつながる。

(4)グループ（10班）での意見交流は、以下の手順で行った（図3）。

- ①「歴史上の迫害問題とネットいじめの共通点・類似点を探してみよう（課題1）」を提示。
- ②歴史上の迫害問題とネットいじめの事例を比較・検討し、共通・類似点をまとめる。
- ③「ネットいじめを防ぐためにはどのような行動が必要か考えよう（課題2）」を提示。
- ④課題1を踏まえて課題2を検討し、グループでの意見をまとめる。



図3 グループでの意見交流

(5)各グループで意見を模造紙にまとめ（図4）、クラス内で発表した（図5）。自分たちのグループと異なる意見は、ワークシートに記入し、クラス内で意見の共有を図った。

グループの意見

課題1 歴史上の迫害問題とネットいじめの共通点・類似点を探してみよう

- ユダヤ人というだけで迫害されている点と嫌われている女子と仲良くしているだけで仲間はずれにされるという点。
- 職業制限がLINEはずしに似ている。
- 強制的にゲットーへ移住させられることと強制的にLINEのグループを退会させられる点が共通している。
- 弱い立場の者を迫害しているところと現代の弱い立場である人を大勢で集中攻撃しているところが共通している。
- 誹謗中傷とネットの悪口が共通している。



図4 グループの意見を模造紙に記入

課題2 ネットいじめを防ぐためにはどのような行動が必要か考えよう

- 偏見的な目で見ない。 ○個性を尊重する。
- デマを簡単に信じない。 ○良好な交友関係を築く。
- 周りに流されず、個人の意志を持ち、意見する勇気が必要。
- 相手の気持ちを考えて悪いと思ったことには便乗せず、自分の意見をしっかり伝える。



図5 他グループとの意見交流

(6)本時のまとめとして、学習内容をもとに感想を記述させるとともにアンケートを実施した。

生徒の感想（一部）

- 歴史上の迫害問題と現代の問題に共通点はないと思っていたが、意外にも似ていることが多くびっくりした。昔と今の問題を照らし合わせるのは面白かった。歴史の問題から現代の問題の解決策を考えたい。
- 昔の迫害は現代のいじめと意外に共通点が多く、変わらないのだと思いました。昔も現代も互いの事をよく理解し合い、尊重していくことが大切だと感じました。周りに流されずに、自分の意志をしっかりを持ち、自分で正しいと思う判断をしていけるように普段から気を付けたいと思いました。

4 考察

- ユダヤ人の迫害についてキーワードを提示しながら説明したため、歴史上の迫害問題とネットいじめを比較検討しやすくなり、共通点・類似点に気付かせることができた。
- 歴史上の迫害問題とネットいじめの防止を結び付けて意見交流を行うことによって、他者を尊重する重要性を理解させることができた。
- クラス発表で他グループの意見に触れ、他者尊重の態度を養う環境を整えることができた。

実践 2

1 単元名 大航海時代～世界の一体化の始まり（第1学年・3学期）

2 本単元及び本時について

本単元では、15～16世紀の西ヨーロッパが対外進出に乗り出した「大航海時代」について学習する。この時代は、スペイン・ポルトガルのもとで世界が一体化するという効果があった一方で、アメリカの諸文明が破壊され、先住民たちが過酷な労働や虐待されるという負の側面が見られた。

ヨーロッパ人によるアメリカ先住民の虐待（酷使・虐殺）の実態と現代社会の諸問題を比較検討し、意見交流を通じて、「他者尊重の精神」や「人権を尊重する態度」をクラス全体で深めることをねらいとする授業を実践した。

本時では、周囲からの圧力を受けながらも先住民を保護するために行動した聖職者ラス=カサスを取り上げ、周囲に流されずに行動し、人間の尊厳や生命・自由を守ることの難しさと重要性に気付かせた。本時で取り上げる歴史的事象と現代社会の諸問題についてグループで意見交流し、クラス全体で意見を共有することは、「他者尊重の精神」や「いじめを許さない態度」を養うとともにいじめの未然防止につながると思う。

3 授業の実際

(1)本時は、実践1の学習内容を受けて、歴史的事象の理解を通して他者尊重の精神を養うとともに、いじめを許さない態度を身に付けることに重点をおいて実践した。意見交流を活発化させるために、導入において実践1の学習で生徒が気付いたこと、考えたことをクラス全体で共有した。

実践1での学習で生徒が感じたこと

- 人や自分と違うから嫌いと思うのではなく、個性として認める。
- 相手を知り、相手の言葉に耳を傾けることが大切だと思う。相手の気持ちを尊重する。
- 言動に気を付けて、デマを信じて周りに流されない。

(2)ICT機器を活用して、スペイン人によるアメリカ征服や先住民に対する支配の実態をスライド1及びスライド2を通して概観した。ワークシートに感じたことや気付いたことを記入させた（図6）。

私は実際にこの目で見たのだが、**キリスト教徒**は次々と新しいさまざな殺し方や拷問の方法を編み出して、数え切れない人びとを生きたまま火あぶりにしたり、めった斬りにしたり、拷問したりしていた。また、彼らは生け捕りにした**インディオ**を全員、**奴隷**にした。

スライド1

エンコミエンダ制とは？

スペイン国王が1503年に認めた
アメリカ大陸における植民地経営の形態

〈内容〉

- ・植民者に土地を与え、先住民の使役を認める
- ・先住民へのキリスト教化の義務

↓
実質的に先住民を**奴隷**とする制度

スライド2



図6 ワークシートに記入

(3)先住民保護の運動を展開したラス=カサスの行動と思想について、スライド3及びスライド4を通して理解させた。

ラス=カサスの思想

インディオの人間としての能力はヨーロッパ人と同じであり、権利においても同じである。
↓
スペイン人が彼らを征服し奴隷にすることは許されない。

↓
「人類はひとつ」

↓
黒人奴隷制にも反対

スライド3

ラス=カサスへの反感

「エンコミエンダ制廃止」の張本人

↓
スペイン人植民者から激しい非難

↓
生命に危険が及ぶほどの緊迫した状況

スライド4

生徒の記述

スペイン人植民者から激しい非難
インディオは人間
→我々と同じ
→権利も同じ
→奴隷にするのは許されない
「人類はひとつ」

(4)グループ（10班）での意見交流は、以下の手順で行った。

- ①「先住民を支配するスペイン人とネットいじめをする者には他者に対してどのような共通点・類似点があるか考えてみよう（課題1）」を提示。
- ②スペイン人による先住民支配とネットいじめの事例を比較・検討し、「課題1」について自分の意見をまとめる。
- ③「ラス=カサスの言動を参考にして、いじめ防止にどう取り組むべきかを考えてみよう（課題2）」を提示。
- ④課題1と課題2について、グループで自分の意見を発表し合い、意見をまとめる。

(5)グループの意見を模造紙にまとめ、クラスで発表した。自分のグループと他グループの意見を踏まえて課題をもう一度、捉え直すように促しクラス内で意見の共有を図った。

グループの意見

課題1 先住民を支配するスペイン人とネットいじめをする者には他者に対してどのような共通点・類似点があるか考えてみよう

- 対等に見ていない。○思いやりの欠如。○自分たちを正当化している。自分が悪いと思っていない。
- 自分のこと（自分の利益）だけ考えて、相手の気持ちを理解しようとしめない。
- 自分がしていることの重大さを理解していない。
- 弱い立場にいる人や自分と違うことをする人を差別している点。

課題2 ラス=カサスの言動を参考にして、いじめ防止にどう取り組むべきかを考えてみよう

- 周りに流されず、自分の考えを貫き通して、いじめられている人の助けになってあげる。
- 粘り強く自分の言動に自信や勇気を持って取り組む。

(6)本時で学習した内容について、グループの意見交流や発表もとに感想を記述させた。また、実践1と同様にアンケートを実施した。

生徒の感想（一部）

- ラス=カサスのように支配されている側、いじめられている側の気持ちを考えて行動することは重要だと思いました。
- ラス=カサスの「人類はひとつ」という言葉は、いじめを防止するために大事なキーワードになると思う。
- 周りに流されて人を傷つけるようなことはしない。もし周りに人を傷つけるような言動をとる人がいたら、それに反対できるようにしようと思った。

アンケート結果

| アンケート項目 ※回答者数 「実践2 39名」、「実践3 38名」 | 実践2 | | 実践3 | |
|--------------------------------------|-----|-----|-----|-----|
| | はい | いいえ | はい | いいえ |
| 意見交流で自分の意見を相手に伝えられましたか | 39 | 0 | 37 | 1 |
| 意見交流で相手の意見に対してしっかりと耳を傾けられましたか | 39 | 0 | 38 | 0 |
| 今日の授業では、クラス全体で意見を共有できたと思いますか | 37 | 2 | 38 | 0 |

4 考察

- いじめ問題を考えさせるためにラス=カサスの言動を取り上げたことにより、周囲に流されないことの難しさを感じた一方で、毅然とした態度をとることの重要性に気付かせることができた。
- 歴史的事象と現代の課題を踏まえた学習を継続することによって、他者尊重の精神を深めさせることができた。
- 実践の積み重ねによって意見交流が活発となり、クラス全体で他者尊重の精神を共有する環境を構築できた。